

おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 20 号 (10 月 18 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権 米沢中央に実力負け

10 月 13 日 (土) 県総合運動場内サッカー場にて選手権 3 回戦の米沢中央戦が行われました。ベスト 16 の山ということで、いよいよ本格的な県大会が始まった、という感がある。米沢中央は山東と入れ替わりで Y 1 に昇格する実力派のチーム。Y 2 にて優勝こそ東海 B に譲ったものの、その東海 B にも 2 度目の対決では勝利を収めている。Y 1 では結果が物語っているとして、Y 2 でも勝ちぬく力がないであろうと予想される山東だけに、苦戦を予想させる。ピッチは久しぶりの良い天然芝。**第一試合では鶴南が日大相手に体を張った粘りを見せており、第二試合のお手本にせよ、と指示して試合に臨む。**ありがたいことに、いつものように多数の保護者の応援を受ける。また、激励会にもおいで下さった鈴木卓 OB も応援に駆け付けて下さる。清野 OB 会長と後藤報道局長ももちろん駆けつけている¹。**第二子奈央ちゃんが生まれたばかりの芹川トレーナー**もいらっしやり、大学の後輩の米沢中央鳥羽先生と高校の後輩の今野のどちらにも挨拶して下さい。さあ役者は揃いました。あとは選手が頑張るだけ。

試合が始まると一進一退。ということは山東ペースとあってよい。だって、相手は実力的に格上なので。うまく攻めることはできないまでも、センターバック (CB / CDF) 1 枚とサイドバック (SB) 2 枚を前試合から入れ替えた効果か、守りではここ最近にない安定を見せ、米沢中央にうまく攻め込ませない。と、良い入りを見せたが、前半の中盤、ファーサイドの競り合いで甘さがあり、シュートを打たれ、失点してしまう。左から右へ (山東からすれば右から左へ) ボールを運ばせてしまったこと、最後のところでシュートを打たせない厳しい寄せができなかったこと、さほど厳しいコース・スピードでもないシュートを GK が止められなかったことなど、**甘さが重なった失点シーン**。とはいえ、2 回戦山工戦のような「理解できない失点」ではなく、甘さ=実力不足という原因が理解可能な失点。多少山東もゴールに迫ることができ、前半を終える。

後半、守備だけでなく攻撃でももう少し良いところが見たいと思いながら選手をピッチに送り出す。しかし、流れは時間を追うごとに米沢中央ペース。**攻撃は 2 トップが離れすぎており、コテッチャンが中央付近で孤立するシーンが目立つ。**リクはリクで右サ

¹ 実は遠藤前顧問からも激励のメールを頂きました。遠藤前顧問は南陽高校剣道部顧問として頑張っているようです。

イドで張って、圧力をかわそうと試みているが、ドリブルで引っ掛かるシーンが多く、うまく攻められない。もちろん、攻撃はトップ（FW）だけで行うものではないので、良い攻撃を見せられないのはトップの責任だけではないのですが、これまで厳しい試合もトップの頑張りで何とかつないできたところがあり、トップが完全に封印されたのは正直計算外。良い攻撃ができないのは当然守備にも影響が出る。攻撃で相手を動かすことができず、ボールを支配される時間が長くなるだけに、守りに疲れが見えてくる。米沢中央は交代選手の活きが良く、攻撃がさらに活性化され、山東守備陣が翻弄されだす。そんな劣勢の中、ディフェンスラインの前のバイタルエリアに斜めのパスを通され、ポストプレーに対して走り込んだFWにボールが渡り、フィニッシュを許し、2失点目。美しい、練習の通りの得点により追加点を許す。苦しい展開。**2失点が重たいだけでなく、後半、有効なシュートすら打たせてもらえないワンサイドの展開が山東にとっての面白みを失わせている。**0-2でさらに楽になった米沢中央は伸び伸びとしたプレーが続き、3点目も遠くはないムードが流れる。トリッキーなドリブルを許し、「小馬鹿にされてるな～、選手は悔しくないのかな～（そんなプレーされて、なぜ、もっとガッツリ当たらないのかな～）」とベンチから悔しい気持ちで戦況を眺める。そういえば、地区新人の東海戦でもトリッキーなドリブルをされ、まんまと簡単に足を出してあっさり抜かれていたっけ。経験上、相手を誘うようなジェスチャーを含むトリッキーなドリブルは、結局それを行った選手が恥ずかしくなるような形でボールを奪われるもの（というかそうさせなきゃいけないもの）なのですが、まんまと引っ掛かるあたり、ホント情けない。ジャンケンで「チョキ出すよ、チョキ出すよ」というジェスチャーをされたときに素直にグーを出して相手に出し抜かれるようなもので、**山東の選手はホント素直すぎる。性格的に良くても、サッカー（勝負）には負ける癖がついている。もっと、顧問のように性格が悪くならなくてはいけない（S村顧問を除く）。**結局、スコアはそのままで0-2の完敗。

かたやY2に降格し、かたやY1に昇格するチームの違いを見せつけられた格好。確かに山東は新人チームですが、米沢中央にも数多くの1、2年生が出場しており、全く言い訳にならない。「強かった米中、山東の相手ではなかった」というのが正直な感想です。**応援ありがとうございました。**そういえば、試合終了後、応援席に挨拶に行くと、恩師（今野高校時代のサッカー部部長）の**鈴木正浩先生**の姿が（正浩先生は渡邊前監督の時代には監督だったと思います）。正浩先生の元気なお姿を保護者の皆さまにご紹介できて、とてもうれしい、誇らしい気持ちになりました。試合後には先生からメールも頂戴し、山東サッカー部の歴史について貴重な資料を頂きました。本当にありがとうございました。来年度以降の部報作成時に、役立てたいと思います（今野残留の場合）。

翌日14日（日）準々決勝が行われ、米沢中央は日大に力を見せつけられて大敗。結局、第四シードまでが残る順当な結果で、**準決勝は①羽黒一山形中央、②日大山形一東海大山形というカードとなる。羽黒が連覇をするか、どこかがそれを阻止し栄冠を勝ち取るか、準決勝見物です（準決勝①11:00～、②13:00@白鷹町東陽の里）。**東陽の里は今年人工芝ピッチになったばかりのところ。山形から長井に向かう途中にあります²。

² 駐車場が狭いため、一般車両は別な駐車場に回されると思います。